- Roubaud, E. (1925) Une nouvelle espèce de puce-chique pénétrante, parasite des rats en chine: *Dermatophilus lagrangei* n. sp. Bull. Soc. Path. ext. 18: 399-403
- Riley, W. A. (1932) The ear chigoe of rats in China, *Tunga caecigena* J. et R. Lignan Sci. Jl., 11: 285-287.
- Liu, C. Y. (1939) The fleas of China. Phil. Jl. Sci., 70: 1-122.

[大阪大学微生物病研究所・和歌山医科大学病理学教室]

資料

丹澤山中のヤマトハマダラカに就いて

森 久 保 茂

Morikubo, S. Notes on *Anopheles lindesayi* var. *japonicus*
in Mt. Tanzawa, Kanagawa Pref.

Anopheles lindesayi var. *japonicus* Yamada (ヤマトハマダラカ) に就いては諸家により種々なる變化が觀察報告せられ、特に成蟲の翅或は肢の斑紋の變化等につき論ぜられ、*A. lindesayi* 原型との異同等問題にされている處であるが、私は幼蟲に於いて從來の記載と少しく異つたものを認めたので参考迄に報告する。

昭和 23 年 8 月 6 日丹澤山(神奈川県西北山嶽地區)の札掛部落に蚊の採集を行つたが、同部落より南約 3Km の諸戸部落附近の溪流の川原に出来た湧水中にヤマトハマダラカの幼蟲の發生するのを認め採集した。同湧水は雑木に蔭われ半ば日蔭で水質清冽水温 15°C であつた。札掛、諸戸兩部落は數戸の小部落で而も他の部落迄は 10 數軒の距離にある山中で標高 500 m 然し気温は其れ程平地と差はない。

附近をかなり詳細に調査したが *Anopheles* の發生個所は他に認め得ず、而も他の種類も認め得なかつた。次いで昭和 24 年 8 月 13 日及び 9 月 11 日の前後 3 回同じ場所に於いて採集を行つたが、同所のヤマトハマダラカ幼蟲は次の點で他所の其れと異つている。

- 1) 特有の 5 條の横縞が不明瞭で全體が褐色のことが多い。
- 2) 後額嘴毛で 2-4 岐しているものが多い。
- 3) 外頭頂毛が 2-4 岐しているものがある。

3 回の採集總數 162 匹の幼蟲につき、上の諸點を検討すると附表の如くなる。

即ち横縞不明瞭のものが非常に多い、又後額嘴毛 2-4 岐するものが半数以上に及んでいる。2-4 岐するものが 3-4 齡幼蟲のみであることは當然であるが單狀のものが各齡に見られることは、高齡になれば全部が分岐すると言うものではないことを示す。單狀 68 匹中 3-4 齡のものは 25 匹で、2-4 岐する 94 匹と比較すると大約 1/4 が高齡になつても尙單狀のまま残る即ち 3/4 が 2-4 岐するものと思われる。外頭頂毛の分岐は少數例であつたが時に 2-4 岐し

ている。又外額嘴毛が2岐しているもの2例を認めた。私が昭和22年夏、神奈川県下の主として平地で採集したヤマトハマダラカ幼

蟲50匹は従來の記載通り全部明瞭な横縞を認め、後額嘴毛、外頭頂毛共單狀が主で時に2岐していた。

今回採集した幼蟲は一部飼育し、♀5計8匹の成蟲を得て検討したが、翅の斑紋は前縁脈末端の白斑は常存するが細部の斑紋に至つては殆んど個體毎に多少の差違があり、又後肢腿節の中央並に基部の白輪は腿節全長の $1/4-1/6$ を占め、高田氏を始め従來の調査の範圍を出でず、従つて成蟲に於いては特別な變異は認めていない。強いて言

えば *A. lindesayi* 原型に近いものと思われる。

卵蛹其他の詳細な觀察は後日に譲る。終に臨み採集に種々御便宜を與えられた丹澤ホーム中村芳男氏に深謝する。

主 要 文 獻 徳永雅明：醫用昆蟲學、(1943) 佐々、淺沼：蚊を調べる人のために、(1948) 山本茂信：ヤマトハマダラカについて、新昆蟲、1-7 (1948) 森久保茂：神奈川県下のアノフェレス、醫學と生物學、12-6 (1948) 高田功：三浦半島の *A. lindesayi*、綜合醫學、6-14 (1949) 土本重：ヤマトハマダラカの變異、醫學と生物學、14-6 (1949) 土本重：ヤマトハマダラカの第一期幼蟲、醫學と生物學 14-3 (1949)

[神奈川県衛生研究所 所長 兒玉威]

緒方正規博士が蚤のペスト病毒傳播を 發見した経緯

緒 方 規 雄

Ogata, N. The Story of Dr. M. Ogata's discovery of the transmission of plague by flea.

ペスト病流行対策の内重要なものの一つが捕鼠であることは今日既に周知の事柄である。ペストは人への流行に先だち鼠族間に先ず流行し鼠体内のペスト病毒は之れに外部寄生せる鼠蚤により人に傳播せらるゝものであると謂う蚤説 (flea-theory) を樹立した者は緒方正規 Masanori Ogata (安永4年—大正8年)であつた (明治29年 1896)。緒方博士が此の説を主張するに至つた根據は以下述べる機會を獲得したるに基づくものである。